

宮崎公立大学
Miyazaki Municipal University



MMU ニュース・レター

第24号・夏

卒業式を終えて記念撮影をする第10期生たち。



大学法人化の意味するもの

学長 浜野 崇好



平成18年度の新入生216名の皆さん、大学生活に慣れましたか。

入学式で、本学が平成19年4月実施に向けて、独立行政法人化に取り組んでいるという話をしました。これは本学にとって、開学以来の大きな改革ですので、その狙いや、これによって特に学生にどう影響するのかを中心に説明したいと思います。

まず、本学は開学から14年目に入り、これまでに1,912名の卒業生を輩出して、各界で活躍するようになっています。まさに地域の教育・文化の拠点として、確固とした存在になってきました。しかし、急激な少子化によって今後、大学志願者が大幅に減少すると予想されるのに加えて、国の高等教育機関に対する政策が「各大学の自律性と競争的環境の醸成を図る」点に重点が置かれるようになり、本学もこうした情勢の変化に柔軟かつ機動的に対応する必要に迫られ、法人化に取り組むこととなったのです。

法人化されると大学、特に学生にどういう影響があるのでしょうか。

本学の正式名称は、新しい独立の法人として「公立大学法人宮崎公立大学」となります。教員の身分は公務員から非公務員に変わりますが、本学の財政は、従来と基本的に変わるわけではなく、したがって教職員の待遇や学生の授業料なども従来の水準を維持することになるはずです。公務員に対する規制は緩和されますので、教員の活動は今までより自由度が増し、法人化によるメリットをさまざまな形で生かすことができるようになります。法人化後の本学の在り方については、目下、全面的な見直しに入っていますので、何年かたちますと、随分変わり、発展したと思う時期が来るかもしれません。

●宮崎公立大学MMUニュース・レター 第24号 ―― [目次]
平成18年(2006)年・夏
大学法人化の意味するもの…………学長 浜野 崇好 2
人文学部で学ぶ…………学部長 中別府 温和 2
[就職]第10回卒業生の就職率は開学以来最高の96.5% 3
[専門演習公開]私たちのゼミ紹介します⑩………… 4～5
長友ゼミ[日本文学演習]/王ゼミ[教育学演習]/宮元ゼミ[スポーツ・健康科学演習]/川又ゼミ[広告計画演習]/大賀ゼミ[歴史学演習]/下ゼミ[言語習得と学習演習]
[卒業式]
第10期生210名に卒業証書・学位記を授与…………6～7

人文学部で学ぶ

学部長 中別府 温和



去年は、リベラル・アーツ大学で学ぶ、を新入生にむけてのことばとしました。今年は、人文学部で学ぶこととはどのようなことか、を考えてみたいと思います。

人文学あるいは人文科学のとらえ方は一通りではありません。本学は人文学を哲学、歴史学、文学、言語学を中心とする学びととらえる立場をとらず、むしろそれを広くとらえて、今述べた領域に加えて政治、経済、法律についての学び、さらには情報や科学の基礎的な学びも含めています。『2006大学案内』の6～7頁に紹介してある150もの科目をよくごらんください。人文学の幅の広さと深さにあらためて驚かれることでしょう。

人文学部を通例はfaculty of humanitiesと表します。Humanities、つまり人間らしさは複数形で現れるのですが、それらの一つひとつが等しく尊厳をもって扱われることを主張しています。ですから人文学部は本来はどのような個性や専門をそなえた人をも受け入れて、かれらをそれぞれにとって最も望ましい人間に鍛え上げていくところなのです。

21世紀は新しい知識や技術や情報が社会のさまざまな活動の基盤になる時代です。そこでは国際的な視野と公共性を身につけ、いろいろな問題に自分で気づき、その解決方法を筋道立てて提言し、他の人たちとコミュニケーションをはかりながら力を合わせてそれらの問題を解決していくような人、つまりグローバルリーダー（『大学案内』4頁）が待望されてきます。

人文学部で学ぶことは、そのような豊かな人間性と能力を育み、世界のどこででも人々から信頼され愛されて生きていくためのしっかりした基礎を築くことなのです。

[海外での研究体験]
「孤独派宣言」………… 福田 稔 8
[留学報告]
「第二の故郷・ニュージーランド」………… 松崎 砂織 8
「竹島と独島」………… 林 真彦 9
「韓国人の“情”」………… 木村 紗也香 9
事務局日より………… 10～11
教職員人事／学生表彰／保健室から／学生相談室から／
本学教員の著書紹介／地域研究センター研究テーマ一覧
／財団助成一覧
[入学式]桜雨の4月5日、第14期生216名が入学…… 12

第10回卒業生の就職率は開学以来最高の96.5%

第10回卒業生の就職者数は164名、就職率は96.5%で、どちらも開学以来最高となりました。

本学では、3年次の早期から就職ガイダンスや自己分析、面接試験対策などの就職活動支援事業を実施してきましたが、卒業生自身が支援事業に積極的に参加し、筆記試験対策や企業研究、企業訪問など精力的に活動してきた成果だと思います。

また、宮崎県内では景気回復の実感はありませんが、大企業を中心に採用予定数は年々増加傾向にあり、雇用環境が確実に改善していることもあげられます。

しかし、企業の採用方針としては、知識と優れた社会性を身につけた人材を厳選する傾向が強くなっており、また、就職活動の早期化と併せて長期化が顕著になっていますので、在学生のみなさんには、早い段階から就職対策への取り組みを期待します。

《貴重な大学生活を有意義に過ごそう》

就職試験では、「大学時代に何を学んできたのか。どんなことが身に付いていて、採用後にそれがどう活かせるのか」が問われます。決して、「どこの大学、どんな学科を出たのか」ではありません。

就職企業一覧

宮 崎 県 内	宮崎市医師会病院 宮崎大学医学部附属病院 社会福祉法人あさひ児童クラブ 権現乳児保育所 宮崎県教員 鵬翔高校講師 宮崎日本大学高校講師 日章学園本部 コープみやざき スタジオアリス D-RAY 近畿日本ツーリスト 大和工商リース 東広告社 NPO法人宮崎文化本舗 宮崎市囀託	日本通運 ヤマエ久野 庄司酒店 西原商会 花王販売 イオン九州 タイヨー ミスターマックス タカミヤ 健康家族 コスモス薬品 ダリヤ 長崎ゼロックス 鹿児島銀行 熊本ファミリー銀行 十八銀行 肥後銀行 楽天K C 岩崎産業 霧島ロイヤルホテル 熊本県赤十字血液センター 鹿児島県教員 鎮西学院高校講師 ジオス 昂 ヒューマンネットワーク 日本郵政公社 J A さつま フォーユー	イービーエム キョードー西日本 北山カントリークラブ 三信産業 スエヒロ 日晶	山陽マルナカ スターバックスコーヒー めがねの田中チェーン 水島信用金庫 第一生命鳥取 壹番屋 APAグループ 中部国際空港セントレアホテル 日光金谷ホテル ホテルセントパレス倉吉 岐阜薬科大学 脳神経センター大田記念病院 ウィルウェイ 向学社 七田教育研究所 オーエムジー リバーズ東京 クラブツーリズム オーエンターテイメント 読売広告社 テンプスタッフ 愛媛県八幡浜地方局 警視庁 東京消防庁
九 州 外			日本食研 山崎製パン 大昭和紙工産業 高千穂電機 ミズノ アイ・エス情報システム アイエック・スナレッジ アドバンスサポート 松竹マルチプレックスシアターズ 日刊工業新聞社 空港グランドサービス 上組 国際エアラインサービス センコー 両備運輸 ワールドエンタプライズ DEODEO フレスタ マルナカ インターナカツ	

〔専門演習公開〕 ともに学び自分を磨く「知の道場」

楽しく学ぶ日本文化の過去と現在

長友武ゼミ〔日本文学演習〕

長友ゼミでは、日本の文化、文学について勉強しています。短歌や文学作品を読み、それぞれの作品から読み取れる作者の考えや思いを分析するなどして、毎回楽しくゼミを行っています。

昨年のゼミでは、戦争に関する映像を見たり、話を聞いたりして、当時の日本を学びました。日本と西洋の映像を比較し、「戦争」が国によってどう捉えられているか考えました。また、当時の日本の様子を知ること、日本とほかの国との関係にも目を向け、現在の日本の直面している問題について考えるようになりました。

今期のゼミでは、日本を代表する文学者について学ぶ予定です。具体的に、作者の家族がどういう存在で、どのような影響を与えたのかを考えていきます。

今まで私たちの知らなかった素晴らしい日本文化を発掘して、卒業論文に生かせるように、毎回のゼミの時間を大切に、これからも楽しく学んでいきたいと思っています。



「笑」の絶えない健康的なゼミ

宮元章次ゼミ〔スポーツ・健康科学演習〕

このゼミでは、日常生活の健康・保健・医療・スポーツなどから、興味のあることを選び、その基礎知識を学ぶとともに問題点の発見および問題解決の方法などについて考え、意見しあっています。取り扱っていることは、ウェイト・コントロールやストレス、脳の働き、スポーツ活動など広範囲に及んでいます。現在3年生は、スポーツや文化活動を通し、町づくり・人づくりの取り組みとして子供の健康づくりや総合型地域スポーツボランティアに取り組んでいます。

とにかく、先生いわく根本的なことは「人生をどう楽しく生きるか」だそうで、遊びが大切ということから先

人類の英知に学ぶ自分発見のゼミ

王智新ゼミ〔教育学演習〕



人生のための教育、特に大学教育は、就職や職業生活の準備段階ではない。いかに有意義な人生（生活）をプライドを持って過ごすかを考え、模索することが教え、そして、学びの原点である。まず、教育を身近に考え、そこから問題・矛盾を見出してくる。さらに、その問題と矛盾の分析・解剖を通じて、問題意識を確立させて、それにそって、哲学や理論の学習を通して、その根源に迫り、解決に導く仮説を試みる。理論だけでなく、今まで培ってきた教育に関する人類の英知を、東西南北のわけ隔てなく学ぶのがこのゼミの特徴。ゼミ生の興味関心に沿って課題を設定すること、従って、自分で問題意識を持つことが大事である。自分探し、自分発見のゼミである。今までのテーマの一例を挙げると、地域の伝統文化の継承問題、国技の後継者の養成、少年犯罪、教育基本法改正などである。

教育学演習は、時には孤独を味わうゼミでもある。しかし、寂しさに耐えて、孤独に磨かれて、あなたは立派なおトナになる。



生と生徒の距離が近く、先生には何でも相談できる仲です。現在のところ3年生が8人、4年生が3人のアットホームなゼミです。卒業論文にも早くから意欲的に取り組み、ゆとりのある生活を目標としています。将来に役立つ知識をたくさん学べるゼミなので、興味のある方はぜひ遊びに来てください。

マーケティングと広告のスキルを学び世界と渡り合う

川又祥平ゼミ〔広告計画演習〕

「広告計画演習」の川又ゼミでは、効果的な広告キャンペーンを計画実行できるスキルを身につけるため、マーケティングや広告の理論と事例研究を行います。テキスト講読による理論習得だけでなく、グループに分かれて具体的な商品やテーマを設定し、実際に広告計画を作り上げてみる実践的な演習を行います。

思いつきでなく、商品・サービスに対する消費者の意識の深層を読み取りながら、背景となる経済動向、社会トレンドや競合ブランドの動きをにらむなど綿密な分析を踏まえて、大胆かつユニークな広告計画を組み上げていく方法論を習得する演習です。

現在は4年生8名（蔚山大学校の留学生を含む）、

私たちのゼミ紹介します ②



3年生11名がメンバーです。新しいゼミですので、ゼミの伝統行事はこれからつくられます。広告業界などの社会人・先輩をお呼びしたり、学年ごとや合同のコンパも行い、楽しみながら知識と経験を広げていきます。

語学学習好き集まれ！

下絵津子ゼミ〔言語習得と学習演習〕



ゼミには現在3・4年生合わせて16人が在籍しています。全員とても仲が良く、いつも楽しく勉強しています。このゼミでは毎年3年生が学祭でゼミ内容に関することをグループ・個人に分かれて発表しており、この活動はそれぞれの卒論につながっていきます。具体的には、早期英語教育や第二言語としての日本語学習、バイリンガルなどのテーマに取り組んでいます。

ゼミでは語学習得や語学学習に関する文献を読むことはもちろん、それについて英文でまとめたり、シャドイングをしながら英語で意見交換をしたりするなど、積極的に目標言語に触れています。

このような活動をするだけでなく、屋久島へ合宿に行ったり、先生と一緒にバドミントンをしたりと行動的な一面も持っています。さらに、現ゼミ生全員が短期もしくは長期の留学を経験しているのです。

言語習得という内容に関してさらに知識を増やし、自分の将来に大いに役立てるために、これからも頑張ります！





【卒業式】

第10期生210名に卒業証書・学位記を 授与

卒業式を終えて記念撮影をする第10期生たち。

穏やかな陽気に恵まれた平成18年3月24日、第10回卒業式が行われ、開学以来最も多い210名の卒業生が慣れ親しんだ学び舎を巣立っていった。

式が始まる前には、吹奏楽部による演奏が行われ、会場は厳かな雰囲気包まれた。卒業生たちは、それぞれ感慨深げに聴き入っていた。

式では、各教員が担当のゼミ生を紹介し、代表者が浜野学長より卒業証書・学位記を授与された。

学位記授与後、浜野学長の告辞があり、「大学卒業までに得た知識やスキルを生かして、リスクをマネージしながら、力強く羽ばたいていただきたい!」と述べた。続いて挨拶を行った、宮崎公立大学事務組合管理者津村重光宮崎市長は、「現状に満足せず、高い目標を持ち続けて努力する『凌雲の志』を常に持ってほしい」とはなむけの言葉を贈った。

この言葉を受けて、卒業生総代寺田知穂子さんは、「宮崎公立大学で学べたことを誇りに、常に前を向いて歩いていきたい」と答辞を述べた。

また、記念品贈呈委員長福森織里江さんから卒業記念品として光触媒人工観葉植物5本が本学に寄贈された。

当日は講堂前の桜が見ごろを迎え、式終了後は家族

や在学生たちと共に、思い思いに写真撮影をする様子が見受けられた。夜には祝賀会が行われ、教員や友人たちとの別れをいつまでも惜しんでいた。

自分自身を成長させてくれた学生生活

卒業行事等実行委員長 木前 謙司

社会人としての道を歩み始めた今、私は、新しい環境に飛び込み、新しいことを身につけていくための時間に追われています。一日中仕事をしていると、つい最近まで学生だったことがまるで嘘のように思います。

学生時代の私は、二つの部活をかけもちしていたり、凌雲祭実行委員会や食卓の会の一員として活動していたりと、学生時代にしか出来ないことに積極的に取り組んでいました。入学した頃は、一人暮らしをはじめたこともあり、新しい環境になじもうとすることで時間は過ぎていきました。二年生で凌雲祭実行委員の幹部の一員として凌雲祭に係わり、三年生からは、専門ゼミを通して子どもDAYプロジェクトなどの様々な活動をし、気がつけば、卒論を仕上げ、卒業を迎えていました。そんな学生生活は、自分なりに充実した四年間であったと思いま

すが、迷いや葛藤に押し潰されてしまいそうになったことが一度もなかった、というわけではありません。ですが、学校行事に積極的な姿勢で臨み、学生時代にしか経験できないであろう有意義で充実した時間は、私を成長させ、社会人として歩みだす私に、自信と勇気を与えてくれたと思います。

「よく学び、よく遊べ」と言うように、皆さんも積極的に行事や物事に携わり、積極的に学んでいてください。そして、学生としての時間がある間に、自分の興味があることに時間を費やしてください。皆さんの学生生活が、有意義で充実したものであることを願っています。



答辞を読む寺田知穂子さん。



告辞を述べる浜野学長。



式後、満開の桜の下で歓談する卒業生たち。

孤独派宣言

教授 福田 稔

私は日常から隔絶された空間で論文を読み原稿を書くという孤独な研究スタイルが好きである。できたら机の右手に…夏はレモングラスの冷えたハーブティーが…冬は温かい甘酒かココアにビスケットがあって、左斜め前には猫がスヤスヤと寝ている。そういう書斎を手に入れたと思う。ということで、私は大学の研究室では授業の準備や事務的な仕事はするが、真の意味での研究はできない性分である。

これまで出会ってきた研究者たちは大学研究室派と自宅書斎派に分けることができると思う。これは国や大学に関係なく個人の志向や事情によるところが大きい。

大学研究室派には、自宅では幼い子たちがうるさいからと土日も研究室で過ごされていたアメリカの言語学者、休日も弁当持参で片道2時間かけて大学へ来て研究をされていた英文学の先生がおられた。大学研究室派も日常生活から離れた静かな空間を求めているのである。

自宅書斎派ではハーバード大学の久野暲先生が一番印象的だった。日曜大工が得意な先生は地下室に自作の書斎をお持ちだ（写真は久野先生と地下室の自作階段）。地上世界から隔離されて静かであるのはもちろんだが、自分で設計製作をされたので非常に機能的な書斎だった。「大抵の論文は1度読めば問題点がわかるが、良くできた論文なら2度読むこともある」とお聞きしたとき「流石天才は違う」と思った。実はその才能を支える、研究に集中できる環境をお持ちだったのである。

私も久野先生のように孤独になって研究に集中できる書斎が欲しいと思う。でも、私のような怠け癖のある孤独派にとって大敵は自分への甘えである。自分だけの世界だから、これくらいのことは許されるだろうという甘えだ。

年中仕事に追われて整理できずに散らかった自宅書斎と大学研究室を見ながら猛反省し、毎日少しずつ片付けて理想の環境に近づける、これを今年度の目標としたい。



第二の故郷・ニュージーランド

ワイカト大学留学 松崎 砂織



短期研修でお世話になったホストファミリーと再会。

ニュージーランド（NZ）短期研修に参加してから一年後再びNZの地を踏んだ時、懐かしさを感じました。

ワイカト大学での学習生活では、一つのpaper（科目）において講義の他にtutorialという少人数の学生と教授による討論会があり、授業中に自分の意見を発言する機会が多く、留学生として引け目を感じる事が最初は多々ありました。しかし、私は公立大学で四年間培ってきた知識・経験でpaperの内容を学び取ることによって意見交換を行おうとすれば、気後れしなくてもよいのではないかと思えるようになりました。

寮での共同生活においては、それぞれの学生が各国の文化と自身の経験を持ち寄っているという事を実感し、一人一人と話す事が知識と経験の財産を共有する事に繋がり、コミュニケーション能力の大切さを痛感しました。また、短期研修でお世話になったスタッフの方々やホストファミリーとの再会を通して、NZを第二の故郷のように思えるようになりました。大学修了後は保育園でのボランティアに取り組み、英語で仕事をする事により、英語学習の目的を見直す良い機会となりました。

私が今回の留学を修了する事ができたのは、難しいからといって自分の可能性を諦めてしまうのではなく、やり遂げたいという気持ちを前面に出せるようになったからだと思います。そのように私を後押ししてくれたNZは未だ「羊が多い国」「キウィフルーツの産国」としてしかあまり知られていませんが、これから私は恩返しとして「架け橋」ではなく「生きたガイドブック」としてNZの魅力を伝えていきたいです。

竹島と独島

蔚山大学校留学 林 真彦

私が韓国へと留学に旅立つ3日前、島根県の議会で「竹島の日」が制定された。2005年2月22日のことである。島根県出身である私にとってこれは大きな心配事だった。ただでさえ反日感情が存在するといわれる韓国で、しかも韓国人にとって一番嫌いな島根県人である私がこの時期に留学することを。

事実、韓国に来て当初は竹島問題に関して言う人も多かった。彼らの多くは「独島は韓国の領土だ」と言うのが常だった。

そんな狭い心地でいるときに私が「兄貴」と慕う韓国人に再会した。兄貴は以前、蔚山大学校からの短期研修生として私が兄貴のパートナーをして以来、私が韓国に興味を持つ大きなきっかけを作ってくれた人だ。その兄貴が酒の席で竹島問題についてこう言った。「独島は韓国の領土で、竹島は日本の領土だ、それでいいじゃないか」と。この一言で私の緊張は解かれた。

私はそれまで神経質になっていた。韓国人の反日感情を恐れていた。だが兄貴の一言で気づいた。確かに竹島問題は日韓両国にとって避けて通れない問題ではあるが、我々に出来ることは、変な意識をせずに素直な気持ちで交流することだと思った。

韓国では数え切れないほどの多くの方が優しくしてくださった。出会ったすべての人々が手を差し伸べてくれた。感動した。その方たちの誰か一人でも欠けていたら無事に留学生活を終えることは出来なかっただろう。

「竹島の日」からすでに1年が過ぎた。我々に出来る民間での交流を続けることが日韓の竹島問題の解決につながることを願う。



現地の学生軍人と一緒に。

韓国人の“情”

蔚山大学校留学 木村 紗也香



帰国前の送別会で友人と一緒に。

短期研修に参加したこともあり留学直前になっても不安を感じることはなく、一年間自分の力でやれるだけやってみようと決意したのを覚えています。しかし、韓国での生活が始まると買出しから食事、洗濯など全て一人ではやっていけないということがわかりました。寮のルームメイト、日文学科の学生、旅行先で出会った人々…多くの“韓国人の情”が私の留学生活を支えてくれたのです。

しかし、時にはその“韓国人の情”に悩まされました。その時は最善だと思ったことが結果最悪だったこともありました。しかし、その最悪の結果を経験したことで“韓国人の情”は韓国人の“情”だということが見えてきたのです。私は知らず知らずのうちにどこかで“韓国人”“日本人”…と考えていたようです。

帰国の日もたくさん韓国人の“情”に助けられました。キャスターが壊れた重いスーツケースを1階まで運んでくれた寮のおじさん、バス停まで車に乗せてくれた見知らぬおじさん、おばさん…。この優しさや親切心は“韓国人”“日本人”を超えた“人”としての優しさ、親切心だと感じました。日本人の私だからしてくれたのではなく、ただ重そうだからという気持ち一つでしてくれたのだと。一年間の留学生活はあっという間でしたが、泣いたり笑ったり悩んだり感動したり…本当に充実した一年間でした。それを支えてくれた韓国人、日本人を超えた全ての“情”に心から感謝します。

●平成18年度交換留学生

●ワイカト大学へ



山北 香織
(やまきた かおり)

●ワイカト大学より



HO AY-YUN
(ホーアイユン)

●蔚山大学校へ



八牟禮 英理
(はちむれ えり)



山下 藍
(やました あい)

事務局だより

○教員人事

●新任

平成18年4月1日付けで堀口正助教授、阪本博志講師、東賢太朗講師が着任されました。

氏名	担当科目
堀口 正	東アジア経済
阪本 博志	大衆文化・出版文化論
東 賢太朗	文化人類学



堀口正助教授



阪本博志講師



東賢太朗講師

●退職

平成18年3月31日付けで田中薫教授が退職されました。



田中薫教授

○職員人事

平成18年4月1日付けで、総務課の中原主任主事、長友主事が転出されました。学生課では、秋丸主幹、岩崎主査が転出されました。

また、総務課の安留主任主事が主査に昇任されました。

後任ならびに配置は下記のとおりです。(敬称略)

総務課主任主事	仁尾 忠尊
総務課主任主事	田辺 理麻

学生課主幹	米良 明信
学生課主査	藤浪 透

○学生表彰

3月24日、宮崎公立大学学生表彰要綱にもとづき、大会で優秀な成績をおさめた宮崎公立大学硬式野球部、社会活動で貢献のあった宮崎公立大学「子どもDAYプロジェクト」、英語検定試験の規定を満たした谷口正春さん、成績優秀者として寺田知穂子さん、加藤麻鼓さん、潘浩されました。また4月10日に、国際交流活動に貢献したとして宮崎公立大学剣道部、韓国語検定試験の規定を満たした加藤総子さん、成績優秀者として山本千絵さん、菊池英子さん、三好小幸さん、山城麻衣子さんも表彰されました。

保健室から

昨今、「受動喫煙（副流煙）」が問題視されるにつれ、公共施設ではもちろんのこと、オフィスやレストランなど多くの施設では、禁煙・分煙対策が進み、愛煙家にとっては住みにくい世の中になってきました。

タバコの弊害は、主に二つの成分によると分析されています。その一つ目は、ニコチンという成分です。これにはタバコ中毒にさせる作用があります。中毒になった体は、体内にニコチンが一定以上の濃度を保たれていないと、極度の緊張感に襲われ落ち着きを無くします。二つ目は、タールという発癌物質です。徐々に体内に蓄積していき、長期的には舌癌や咽頭癌、肺癌などを

引き起こす可能性が高くなります。一度タバコの習慣がついてしまうと、それを中止することは、大変困難です。そこで保健室では、禁煙達成に関する相談を随時受け付けています。禁煙を希望される方は、お気軽に保健室にお越しください。

学生相談室から

この4月から、大迫先生の後任でカウンセリングを行っています吉岡俊彦です（月水金12時～17時）。
カウンセリングと言うと「かしこまった」感じがしますが、コンパをするのに居酒屋が良いかイタリアンレストランが良いか？といったことから、気分が落ち込んでいるが「うつ病」ではないか？とか、友人と馴染めない（疎外感がある）、更には、「死んでしまいたい」「大学を辞めてしまいたい」といった相談まで引き受けます。ガイドダンスでもお話し致しましたように、あなた方の持っているリソース（資源）を大切にし、そしてあなた方が抱えている、困ったことを一緒に解決していきます。
私の趣味は、JAZZ演奏（コントラバスその他）、そしてマラソン（17回完走）。延岡から通勤しています。車や電車の中で聞くと、勿論JAZZ、そして矢沢永吉、倅田來未も良いですね。カウンセリングのことを知りたい方、勉強してみたい方大歓迎です。私の二人の息子も、あなた方と同じ大学生です。あなた方がより良い大学生活を送ることが出来るよう、お手伝いさせていただきます。

本学教員の著書紹介(平成17年4月～平成18年3月寄贈分)

著 者 名	書 名	出 版 社 (出版年)
大賀 郁夫	近世山村社会構造の研究	校倉書房 2005
有馬 晋作ほか	介護保険と21世紀型地域福祉:地方から築く介護の経済学	ミネルヴァ書房 2005
森部 陽一郎ほか	現代の品質管理	泉分堂 1999
福田 稔ほか	言語学からの眺望2003 福岡言語学会30周年記念論文集	九州大学出版会 2003
永松 敦ほか	日本の狩猟採集文化:野生生物とともに生きる	世界思想社 2005
川又 祥平ほか	実践マーケティング・コミュニケーションズ	電通 2005
金子 正光	エクセルによる表計算ソフト演習の基礎	開成出版 2005
広瀬 訓ほか	車縮問題入門 新版	東信堂 2005
四方 由美ほか	ジェンダーからみた新聞のうら・おもて:新聞女性学入門	現代書館 1996
〃	アメリカーコミュニケーション研究の源流	春風社 2005
広瀬 訓ほか	国際法入門 第2版	有斐閣 2005
野中 博史ほか	「生きる」を楽しむ:4400万人のための自分史講座	メディア・ポート 2006
王 智新ほか	平和概念の再検討と戦争遺跡	明石書店 2006

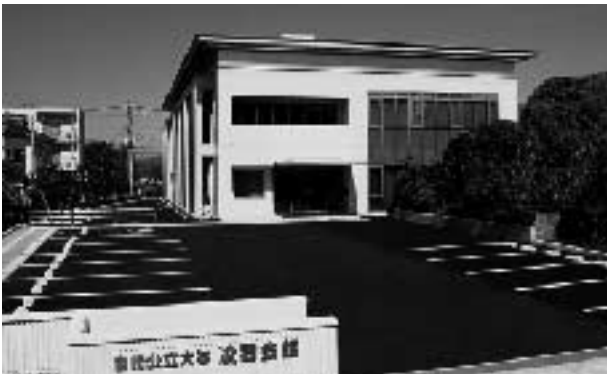


平成18年度

宮崎公立大学地域研究センター研究テーマ一覧

No.	氏 名	研 究 テ ー マ
1	☆ 大賀郁夫 李 善愛 四方由美	地域記録資料のデジタルアーカイブズシステムに関する研究(2)
2	☆ 辻 利則 田中宏明 川瀬隆千 竹野 茂 森部陽一郎	大学と地域を結ぶCOCOMOシステムの構築と活動評価の研究
3	☆ 金子正光	市民協働によるバリアフリー情報提供システムの構築に関する調査研究
4	☆ 新井克弥 野中博史 川又祥平 川瀬隆千 四方由美	ふるさとイメージの再編成と創造のための実践的研究 ～ひむかかたるプロジェクト～
5	☆ 倉 真一 マリリンブックス 野中博史 王 智新・野間 修 永松 敦・田宮昌子 広瀬 訓・下絵津子	国際宮崎研究 ～宮崎と異文化理解/摩擦と融和～
6	☆ 李 善愛 栗田寿男 赤嶺そのみ 市原 肇	宮崎市における地元水産物の流通消費の現状と地域水産資源を活用した地元観光産業の振興策を探る。
7	☆ 永松 敦	宮崎県文化財の保存と活用 ―被災地域との共同を中心として―

☆は代表者



地域研究センター(凌雲会館2階)。

平成18年度

宮崎学術振興財団助成金申請一覧

1 学術研究促進事業

	氏 名	職名	研 究 課 題
1	長友 武	教授	宮崎県内の歌碑の研究
2	野中 博史	教授	NIE教育における教材評価の研究―意見形成効果の定量化研究―
3	マリリン ブックス	教授	明快な文化と明快でない文化
4	ヒュー ニコル	教授	言語教育における協力活動の効果 1)英語教育の授業における協力活動についての学生の認識とその効果 2)ポートフォリオ利用の考察―協力的活動の視点から
5	田縁 正治	教授	3D技術を用いた立体感覚養成ソフトウェアの作成
6	山口 裕司	教授	緑の国家論に関する研究
7	宮元 章次	教授	女子大学生のBody Mass Indexと乳児期の体格との関連について
8	田中 宏明	教授	グローバル化時代の国際関係論教育と国際理解教育―国際関係論の研究・教育・地域貢献―
9	戸高 裕一	教授	宮崎方言の世代差・性差研究(Part 2)
10	福田 稔	教授	交替現象の理論的研究・統語操作と音韻部門や語用論との相互関係をめぐって
11	川瀬 隆千	教授	宮崎市の「子どもDAY」事業への評価とコミュニティ意識
12	広瀬 訓	教授	ポスト冷戦期における国連平和維持活動(PKO)の基本的な性格に関する考察―旧ユーゴにおける複合型PKOを事例として―
13	川又 祥平	助教授	宮崎にアクセスしやすいエリアにおける観光面での消費者の「宮崎」イメージの形成状況を明らかにし、競合エリアと比較して競争力のある特性が何か、強化すべきは何かを検証し、直接的あるいは報道や雑誌等の刊行物・パンフレットを通じた間接的な情報発信の改善・強化に資する。
14	竹野 茂	助教授	Podcasting を利用した高等学校と大学の連携による英語指導の共同実践
15	大賀 郁夫	助教授	歴史系博物館の資料蒐集と展示に関する比較研究(2)
16	新井 克弥	助教授	メディア化に伴う若者の情報行動と自我の変容と、それに対する教育方法の研究
17	田宮 昌子	助教授	悲憤慷慨の系譜―中国文化史上における屈原像の史的変遷(3)
18	李 善愛	助教授	東アジア地域の生活と信仰に関する比較民族学的研究―宮崎地域との比較を通して
19	辻 利則	助教授	障害者にとって有効利用できるeーラーニング教育支援システムの開発
20	久保 和華	助教授	公的年金制度の根本的問題に関するモデル分析
21	倉 真一	助教授	宮崎における地域アイデンティティの形成と展開に関する社会学的研究(2)
22	四方 由美	助教授	戦時下・占領下／宮崎における婦人雑誌の受け手～聞き取り調査を中心に～
23	森部 陽一郎	講師	加入者系光ファイバ網設備整備事業の現状と問題点
24	下 絵津子	講師	言語教育における教師と学習者の役割 1)言語教育におけるポートフォリオ利用から 2)語学教室での協働型シャドイング活動の活用から

2 地域間交流事業

	氏 名	職名	研 究 課 題
25	金子 正光	教授	少子化高齢化時代における宮崎県諸県広域市町村圏域内の情報弱者に対するIT教育支援プログラムの構築
26	永松 敦	助教授	新宮崎市の文化財調査と観光資源の発掘調査



誓いの言葉を述べる藤田希美さん。



吹奏楽部による開式前の演奏。



式辞を述べる浜野学長。



津村宮崎市長からの祝辞。

桜雨の4月5日、第14期生216名が入学

浜野学長が「学びたいことを自ら選び、真剣に取り組む学生を支えていきたい。一緒に頑張りましょう」と式辞を述べ、管理者の津村市長が「真の国際人となるために、広い視野で多方面から物事を捉えることができるようになってください」と挨拶しました。それを受けて新入生代表の藤田希美さんが、「これからの学生生活の中で、知識と教養を身につけ、それぞれの理想像を目指して努力していくことを誓います」と宣誓しました。



式が終わると早くもサークルの勧誘が。

宮崎公立大学
MMUニュース・レター
第24号・夏

平成18年6月
発行 宮崎公立大学
編集発行人 長友 武
〒880-8520 宮崎市船塚1-1-2
TEL 0985-20-2000
URL <http://www.miyazaki-mu.ac.jp>